

オンライン議会報告会・意見交換会「しぎかいサロン」

〈 実施報告書 〉

1. 開催概要

(1) 目的

本市議会では、議会基本条例に基づき市民に開かれた議会を目指すべく、議会活動と市政に関する情報をお届けするとともに、市民の皆様の率直なご意見をお聞かせいただく場として、議会報告会・意見交換会を開催してまいりました。

この度、新しい試みとして、子育て世代の方々とオンラインで今後のまちづくりについて意見交換をすることとなりました。これは意見交換を通じて市政の課題等を発見し、その解決に向けた調査研究を行うとともに、さらなる意見交換を重ねながら政策立案や提言につなげようとするものです。

(2) 日時

令和5年11月18日（土） 午前10時30分開会 午後12時00分閉会

(3) 会場

ミーティングアプリ ZOOM を使用

- ・広報広聴常任委員会正副委員長、事業担当者、民生環境水道常任委員会委員長（5名）…足利市役所本庁舎3階、第3委員会室に参集
- ・広報広聴常任委員会委員（5名）…各自宅から参加

(4) 参加者

足利市議会議員	10名
申込参加者	8名

(5) 当日の流れ

10:00～	議員 ZOOM 集合
10:20～	参加者入室
10:30～	開会（司会進行：広報広聴常任委員会副委員長） 広報広聴常任委員会委員長あいさつ 議員紹介 開催にあたっての注意事項（広報広聴常任委員会副委員長） 議会報告会・質疑（15分）

～民生環境水道常任委員会委員長による報告～
意見交換会（50分）

12:00 閉会

2. 議会報告会

（1）概要

市議会基本条例に基づき、より一層わかりやすく、開かれた市議会の実現に向けて、議会活動に関する説明責任を果たすとともに、市民参加を促進するために実施するものです。

（2）報告内容

足利市保育所等整備後期計画について

（3）説明者 民生環境水道常任委員会委員長

（4）説明資料

・パワーポイント資料…別紙1

3. 意見交換会

（1）概要

市民と共に歩み課題解決を図る議会を目指して、フリートークにより、子育て世代の方々、子ども・子育てに関係のある方々の日頃の思いを率直にご発言いただけるように開催しました。

（2）意見交換のテーマ

「足利市の子育て環境について」

（3）役割分担

- | | |
|-------------|---------------------|
| ①総合司会 | 広報広聴常任副委員長 |
| ②パワーポイント説明者 | 民生環境水道常任委員長 |
| ③意見交換会の進行役 | 広報広聴常任副委員長 |
| ④意見交換会回答者 | 質問の所管委員会の議員、回答できる議員 |
| ⑤ZOOM操作 | 金子委員、鳥井委員 |

(4) 意見（要点）

- ・千葉県柏市に住んでいた際には、子供を保育園や幼稚園に入れることができず、価格も足利市と比べて三、四倍であったため、一番安い幼稚園に入るのに半年ほど待機していたが、足利市では保育園にも幼稚園にもすぐに入ることができ、とてもありがたかった。
- ・妊娠中毒症になり、急遽、獨協医科大学病院に入院することになったが、市役所に相談したところ、一番近い保育所にすぐ入れてくれ、すごく助かった。
- ・子供を持つ親たちと意見交換などをする会を設けている。意見交換をする中で、足利市の嫌なところはあまり出てこないが、アピールできるようなところは正直なく、良くも悪くもないと感じた。
- ・政策についても、まずは始めてみるという思いがない。近隣市の様子を見てから何かを始めるといことが多く、足利市独自でアピールできるようなものがあればよいと思う。
- ・給食の品数や量が少なく、メニューもぱっとしない。
- ・医療費控除の申請を紙で行っているが、やりづらい。
- ・食育という部分で地産地消の取組に力を入れてほしい。
- ・性教育は閉鎖されがちだが、もっと早い段階から受けさせるべきである。
- ・中学校で性教育の講座を行っているが、講座の回数を増やす、講座の時間を増やすなど、性教育を受ける機会をもっと増やすべきであり、市で後押ししてほしい。
- ・子育て支援として行われている、ファミリーサポート事業や産後ケアを、もっと広く周知すべきである。
- ・小学校で性教育の講座をする際、親からクレームを受けることもある。性教育は人権教育であり、自分や周りの人を大切にすることにもつながるため、本来の性教育や性教育の大切さを、大人たちに理解してもらうことが必要と考える。大人たちに対して、そういったことを伝える場をつくってほしい。
- ・あしかがファミリーサポートセンターを利用するに当たり、その都度面接に行かなくてはいけないなどの要件があり、とても使いづらい。
- ・足利市は母子父子家庭に対して、優しくない。
- ・不登校になってしまった子供の行き場がなく、学校でサポートしきれない部分は外部のサポートを得るべきである。

- ・こういった機会は非常に大切である。日常生活において我々が感じている様々な問題を耳にし、どう行動していくのかということに移ってほしい。これからも定期的に開催してほしい。
- ・不登校の子供たちの居場所づくりについては、民間で行うには限界があると感じる。不登校の子供たちはどこも増加しているため、そういったことについて、市でもアンテナを張ってほしい。
- ・保護者が元気だと子供も元気になるということはよくあるため、保護者の心のメンテナンスもぜひやっていただきたい。
- ・一般論として、不登校の子供の様子が心配になったときは、すぐに心療内科に受診することをおすすめする。
- ・政治に対して無関心である人々が増加し、年々投票率が低下しているが、対面での意見交換会や今回のようなオンラインでの意見交換会を開催することで、政治への参加意識が高まるのではないか。
- ・市民一人一人が政治に参加することにより、現在の情勢が変わることを痛感している。機会があれば、今回のように働く世代や現役世代の声を拾ってほしい。
- ・幼稚園生、小学生の居場所や保護者の居場所はあると思うが、中学校高学年や高校生が心の病気になってしまうと、中途半端に子供で中途半端に大人であるために、そこが支援の溝になると感じる。こども館があるのであれば、思春期の子供たちの居場所をつくってほしい。

5. アンケート集約結果…別紙2

6. 記録写真…別紙3

7. 所見…別紙4